

京都東山將軍塚から清水へ

(第102回くらわん会 2004/11/02)

京阪四条駅から程近い、白川が鴨川に流れ込むあたりの、小さい小奇麗な公園が集合場所である。このところ「くらわん会」は雨に祟られどうしだったが、今日はさわやかな秋日和で暖かくなりそうである。137名が参加。

白川にそった石畳の「せせらぎの道」を歩いていく。枝垂れ柳が川面に垂れ下がり、格子戸のある古い家並みが続く。このあたりは祇園新町といって、祇園発祥の地である。しっとりとした花街の情緒があふれ、あゝ京都はいいなと思いつつ歩いていると、やっぱり有りました。バーやクラブの看板がずらりと並んだビルもこの界限には同居して、夜ともなれば和洋の歓楽街になる。

東大路を越すともうこのあたりは広大な智恩院の境内で、先どの花街とはまたがらりと雰囲気が変わってくる。徳川家の菩提寺・智恩院は法然上人を慕った門弟、門徒、衆徒らが法然上人の廟堂を中心にして出来たお寺。巨大な智恩院の三門を見ながら、ゆったりとした勾配の女坂を登っていく。一行はこれからの山登りを控えて御影堂の前でしばし休憩をする。

日本三大梵鐘の一つといわれる釣鐘の横から山に入っていく、これを登りつめたところに將軍塚がある。この森は高台寺国有林で、椎、檜、杉などの原生林が茂り、昼なお薄暗く森精の気が漂う。登り勾配の山道を進むと法然上人が修業されたと言われる「法垂の窟」がある。つづら折れの山道をもくもくと登っていくと、程なく山上の広場にたどり着く。ここには將軍塚大日堂があり思い思いにお参りする。將軍塚の方は有料とあってこれはパスすることになった。將軍塚は桓武天皇が平安京を造営する時、都の平安を祈って將軍（坂上田村麻呂）の像を埋めたと伝えるところである。展望台からは京都市街が一望できるが、逆光ともやのためすっきりとは望めない。

昼食後、またもや山の中に入って行く。東山トレイルの一角を歩いていくと清水山の山頂に出る。少し脇に入ったところに三等三角点が建っており、

白川が鴨川に流れ込むあたりの、小さい小奇麗な公園が集合場所



本日のコース担当リーダー高濱世話人からコース説明



枝垂れ柳が川面に垂れ下がり、格子戸のある古い家並みが続く



このあたりは祇園新町といふ祇園発祥の地、しっとりとした花街の情緒と、バーやクラブの看板がずらりと並ぶ





東大路を越すと、広大な知恩院の境内、巨大な三門は現存最大の三門で二代将軍徳川秀忠の時代、元和5年に完成



巨大な知恩院の三門を見ながら、ゆったりとした勾配の女坂を登る



巨大な智恩院三門横の女坂を上る、徳川幕府はこの三門の上で旗を振らせ、二条城と呼応、御所を監視した



阿弥陀堂は明治年間に建てられた唯一の建造物、本尊は高さ2.7メートルの阿弥陀如来座像

横に242mとある。山頂とは名ばかりで展望も何も望めない。この森は世界文化遺産貢献の森といい、京都の文化遺産を自然災害から守り、桧皮や材木を供給する。ここからは長い下りとなる。山道は登りよりも下りのほうが滑りやすく危険である。とたんにスピードが落ちて渋滞する。誰かが転んで手をすりむいたといって、救急隊が駆けつける。

やっと清水寺の見える広い道に行き着いた。ここからは谷間越しに国宝の本堂や清水の舞台が一望できる絶好の場所で、一山超えてきた我々には何よりのプレゼントであった。今日の行程はここで解散、それぞれにちゃわん坂、清水坂を下りる。寺まで行くとさすが京都最大の観光名所とあって、修学旅行生、外国人観光客やらがわんさといふ雑踏に巻き込まれた。

石田富雄記

御影堂は法然上人を祀るお堂、寛永十六年家光が寄進、徳川家の菩提寺として家康、秀忠、家光の三代は知恩院を京都を統治する拠点に改造した



経蔵から坂道を登ると鐘楼があり、除夜の鐘でおなじみの梵鐘が掛かっている、国内で一番大きい鐘





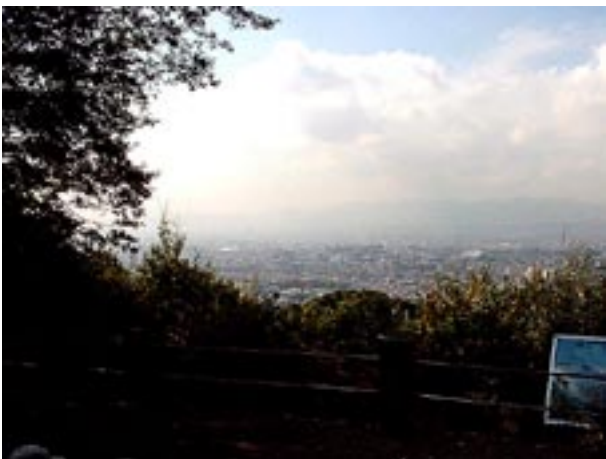
鐘楼を華頂山へと門扉を出ると、それまでと変わった鬱蒼とした原生林が広がる
 登り勾配の山道を進むと法然上人が修業されたと言われる「法垂の窟」がある



山門を潜り抜けると桜やかえでの紅葉が美しい、將軍塚のある広大な庭園への入場は有料
 知恩院の背景の山、華頂山の頂上には青蓮院別院の將軍塚大日堂がある、展望台からは絶景の京都市が見える



市営西展望台からは京都市内が一望でき、ここで昼食を摂る
 石像・大日如来をお祀りした高さ10mと軒の高いお堂がある、この地で発掘された石仏の胎蔵界大日如来をお祀りしている



市営展望台からの京都市内展望は逆光ともやのためすっきりとは望めなかったが、ここからの夜景は素晴らしいだろうと思った



少し脇に入ったところに清水山三等三角点があり、横に二百四十二mとある、山頂とは名ばかりで展望も何も望めない



寛永十年（1633）再建の本堂（国宝）と、錦雲溪の急崖に約190平方メートル総桧板張りの清水の舞台
清水山の下りは結構急坂で、こけむした岩や落ち葉で滑りやすく危険だった



谷越しに見える清水寺三重塔と経堂が美しい

今日の行程は清水寺境内で解散し、次月の例会での再開を約す



清水寺西門は江戸時代初期、寛永8年（1631）再建の、優雅な八脚門（重文）、持国大・増長天を安置



柄杓に清水を汲み、六根清浄、諸願成就を祈る、滝祠に不動明王や行鬻居士を祀っている音羽の滝

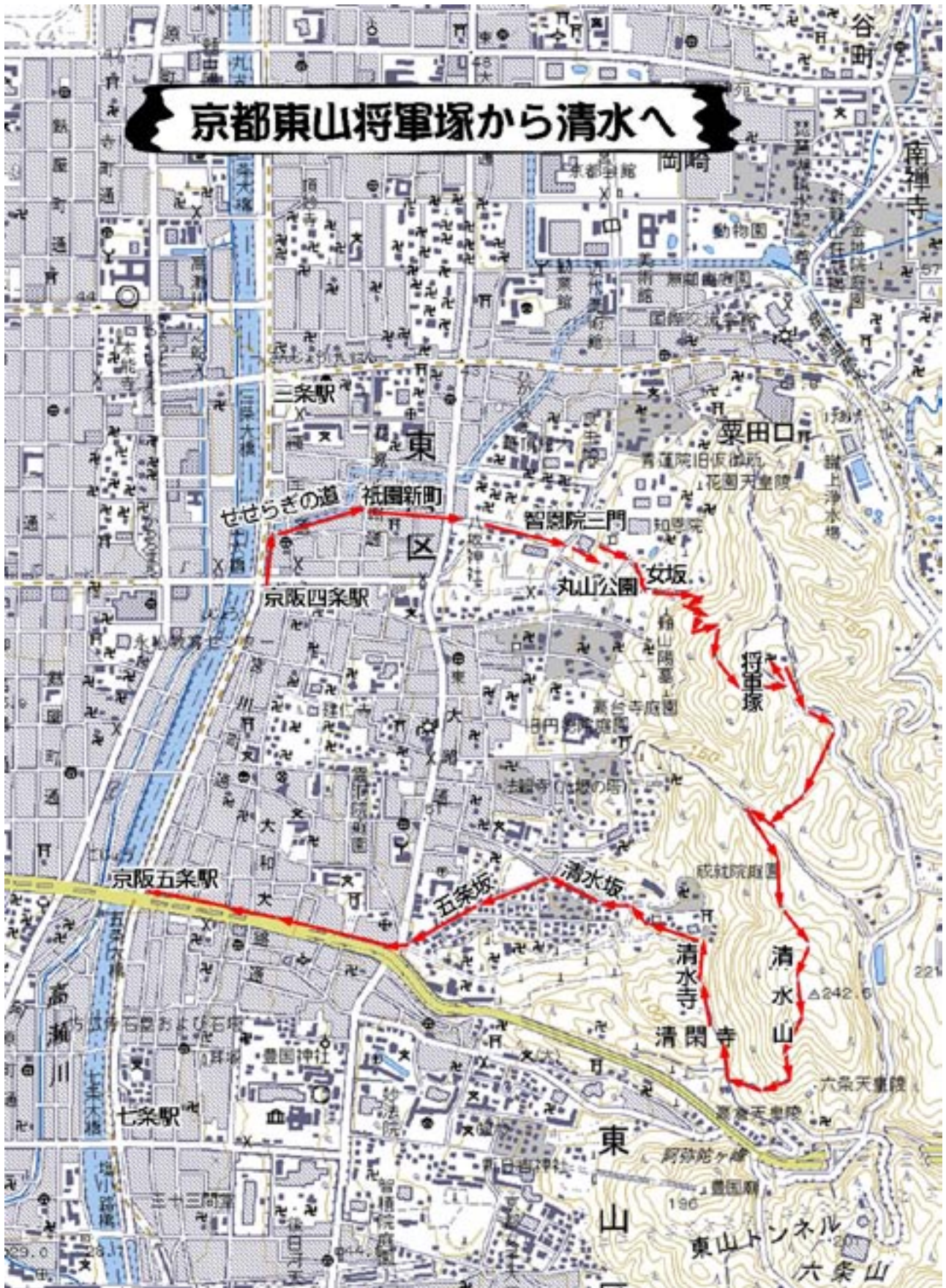


清水坂で舞妓さんに会う。借り装束のアマチュアだとか



清水は京都最大の観光名所とあって、修学旅行生、外国人観光客やらがわんさという雑踏に巻き込まれた





＜行程＞

四條駅⇒せせらぎの道⇒祇園新町⇒智恩院三門⇒女坂⇒將軍塚⇒清水山⇒清水寺⇒清水坂⇒五條駅 距離 8 km

2004年11月02日（火） 第102回例会 137名参加